



Studies on understanding the nature of competition

水田, 誠一郎

(Degree)

博士 (商学)

(Date of Degree)

2022-03-25

(Date of Publication)

2023-03-01

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第8281号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1008281>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



論文内容の要旨

本論文は、わが国の市場を対象として、その競争環境を明らかにする実証研究である。論文は、関連する既存研究の概観を行う第1章"Introduction"、現実に観察されるデータを用いて実証分析を行う第2章"Deregulation and competition in Japanese intercity coach industry"および第3章"Inference on noncooperative entry deterrence"、そして全体を総括する第4章"Conclusion"の、合計4つの章から構成されている。このうち第2章と第3章においてそれぞれ、特定の産業における競争形態を実証的に明らかにするための方法を提案し、さらにその方法に基づいてわが国の産業データを用いた実証結果を提示している。

各章の具体的な内容は次のようにまとめられる。まず第1章は論文の導入であり、競争の環境を探るために先行研究で発展してきた方法論が概観され、それらが本論文全体で分析対象となる問題にどのように応用されるかがまとめられている。第2章では、わが国の都市間運行バス会社の参入行動に関するデータを用いて、その競争環境を実証的に明らかにしている。具体的には、既存の産業組織論モデルに基づいて実証モデルを提示したうえで、計量経済学で開発された構造推定法を利用した実証分析によりいくつかの主要な結果を得ている。第1に企業の追加参入は常に競争を激化させること、第2に追加参入の競争効果は既存企業の数が増えるにつれて減少すること、第3に企業が提供するサービスは有意に差別化されていることを明らかにしている。次に第3章では、わが国のアルミニウム製錬産業をとりあげ、その産業で操業する既存企業による参入阻止行動を分析している。この分析のために、既存の参入阻止モデルに基づいて実証モデルを提示し、戦略的な参入阻止を検出するためのテスト手法を提案している。主な結論として、1973年の石油ショック前のデータには参入阻止モデルが、ショック後のデータにはクールノー競争モデルが、それぞれ整合的であることを示している。すなわち、アルミニウム産業では、石油ショックによって参入の脅威が排除され、参入阻止均衡からクールノー均衡に移行したと結論づけている。この結論は、石油ショックのような外的な要因が競争の形態を変化させることを示唆するものである。

学位論文審査要旨

氏名 水田 誠一郎

論題 Studies on understanding the nature of competition
(日本の市場競争環境についての実証研究)

審査 令和4年2月

神戸大学

第4章では、論文から得られた新たな知見が総括され、論文全体として実証産業組織論の研究の流れにどのような貢献を有するかがまとめられている。

論文審査の結果の要旨

本論文は、わが国の市場を複数とりあげ、それらの競争環境について実証分析したものである。論文では、関連する先行研究を適切に概観したうえで、計量経済学の構造推定法を用いて競争の状況を推定しているため、全体を通しての方法論は科学的であると言える。そして一連の実証分析結果は、近年、特に発展の著しい実証産業組織論の領域において重要性を増している話題に関して、既存の研究では得られていない新たな学術的知見を提示している。例えば、そもそもわが国における都市間バス市場やアルミニウム産業の企業行動は既存の体系的な実証研究ではほとんど分析の対象となつてこなかった。したがって本論文は構造推定法を用いてこれらの産業の競争環境を明らかにしたはじめての研究である。また個別の分析において、次のような重要な貢献がある。

バス市場の競争環境はわが国の競争政策だけでなく、運輸政策上も重要な論点となるにもかかわらず、整理されたデータがないため、その規制緩和を定量的に評価した先行研究は存在しなかった。第2章では、バス事業者の参入を捉えたデータをインターネットよりウェブスクレイピングで収集し、さらに参入行動のデータを市場レベルの需要データで補うことでサービスの差別化が存在するモデルを推計可能にするなど、実証研究を遂行するための工夫が見られる。また、企業が直面する参入の脅威の存在を特定することは一般的に困難であるために、戦略的参入阻止に関しては理論研究の蓄積に比べると実証研究は相対的に少ない。しかし第3章ではアルミニウム製錬産業に焦点を当ててこの困難な問題に取り組み、新たな実証結果を提示することができている。

上記の点において大きな貢献があったと判断する一方で、本論文にもいくつかの課題が残されている。例えば第2章の分析では、バスが2地点間で運行される際、それらの複数市場は独立であることが仮定されているが、近隣市場の相互依存関係を考慮するならば、より精緻な結果を得られる余地が存在する。また第3章の分析では、潜在的な参入企業の費用条件は通常は不確実であり既存企業が正しく予測できない可

能性があるため、そうした不確実性のある状況を考慮する理論モデルがより現実的である。しかし、これらはいずれも著者自身が論文中で限界として言及しており、なおかつ関連する先行研究も同様に直面している課題である。したがって、これらはいずれも今後、さらなる理論・実証的な研究を行う方向で研究を進展させる余地があることを示唆するものである。このため、上記の貢献から判断するならばこれらの課題は本論文の価値をいささかも損なうものではなく、将来、筆者が取り組むべき新たな課題を提供していると考えられる。さらに本論文の第2章は、当該分野の高水準の国際学術誌に既に掲載されていることも評価される。これらの点を総合するならば、本論文の内容は博士論文として提出する水準に十分に達していると判断される。

以上の理由から、審査委員は、本論文の著者が、博士（商学）の学位を授与されるに十分な資質を持つものと判断する。

令和4年3月7日

審査委員 主査 教授 松井 建二
教授 三古 展弘
准教授 善如 悠介